

## 新 著 紹 介

レブリング 著

## オーストラリアの海藻

I. 紅藻類: ゴニオトリクム族, ウシケノリ族  
及びウミゾーメン族

T. LEVRING: The marine Algae of Australia

I. *Rhodophyta*: *Goniotrichales*, *Bangiiales* and *Nemalionales*.  
(ARKIV FOR BOTANIK. Band 2. nr. 6, 1953, pp. 457-530)

本書は著者自身が1947-1948年に亘りオーストラリアを踏査し又ルンドやダブリンを始め多くの腊葉室を歴訪研究せる結果で、該地方のフロラの第1報である。本著には3族7科25属71種(内新種15種及び未発表種1種認定、更に新結合種1種)を含んでいる。

新種として次のものを記載した。

*Erythrotrichia australis*; *Poryphyra denticulata*, *P. Lucasii*; *Acrochaetium uni-filum*, *A. subsimplex*, *A. pulvinatum*, *A. effusum*, *A. subreductum*, *A. villiforme*; *Kylinia australis*; *Colaconema deliseae*; *Liagora crassa*; *Gloiophloea Perrini*; *Scinaia Moretonensis*; *Bonnemaisonia australis*.

又 *Callithamnion radicans* HARVEY は *Acrochaetium* に入れられた。未発表種 *Helminthora australis* J. AG. を認めている。

新品種として *Helminthocladia australis* HARV. f. *ramosissima*; *Helminthora australis* J. AG. f. *epiphytica*, f. *pyramidalis* を記載した。

次に本著から興味のあると思われる若干種或いは本邦と関係深い種を拾つてみるに *Poryphyra naiadum* ANDERS. は体が多層であるという点に於て特徴的な種類である。*P. denticulata* LEVR. は鋸歯縁を有する一重構造である。この様な特徴を有する既知種は *P. areolata*, *suborbiculata*, *dentata* の3種が知られているが、本種は習性、生殖器官の配列及び構造が異なつているという。*Helminthocladia australis* HARV. ベニモック、之は日本から記載されている(岡村, 図譜. 4, p. 21) が著者自身も日本のある標品を調べ多くの点で類似しているけれども本種の極めて典型的な同化糸の「大きい末端細胞」がオーストラリア及びニュージーランド産植物よりも小さく両種は同一とは思われないと述べている。*Liagora crassa* LEVR. は、アガードが *L. valida* var. *australasica* J. AG. と命名したルンドの腊葉室の標品から種として独立させ新種とした。そしてこの種は山田(1933, p. 8 及び p. 11) の *L. robusta* 及び *L. Boergesenii* に極めて類似するといふ。*Liagora farinosa* LAMOUR. 本種はハーバーが *L. Cheyneana* HARV. として記載したが、このオーストラリア種はベルゲーゼンにより *L. farinosa* に帰属し、この種は著者及び山田によつて極めて詳細に記載された。又これは可成り変化し易くアガード

の腊葉室に *L. Cliftoni* があるがこれは本種が特に弱く石灰化したものにすぎないと述べている。*Gloiophloea Scinaoides* J. AG. ニセフサノリ。この原種は *Scinaia furcellata* J. AG. である。セッチェルの *Scinaia* のモノグラフは、ベルグレンのニュージーランド標品や *S. furcellata* の如きアガートの記載に基づき原標本を見る機会をもたなかつた。実際にこの *S. furcellata* も真の *G. Scinaoides* も該地方には見出されていない。そこでベルグレンの種は *Pseudogloiophloea Berggrenii* の名を示唆したい。又セッチェルの多くの種類はこの新属に帰属するであろう。このことは後日論じ度いと思う。しかし著者は真の *G. scinaoides* を採集したが、セッチェルの記載した胞嚢は発見できなかつた。そしてアガートの原図には見当たらない。そこで著者は真の *Gloiophloea* 種に於ては、*Scinaia* にみられる胞嚢は存しないと結論している。更に著者は *Helminthiopsis rosea* を *G. scinaoides* に帰属させた。*Scinaia Moretonensis* LEVR. は *S. Johnstoniae* 及び *S. japonica* に最も近いが胞嚢及び下皮細胞の大きさ形に於て異なるという。*Pseudoscinaia australis* SETCHELL 本種はセッチェルによつて *Scinaia furcellata* と分類された。セッチェルは *Pseudoscinaia* 属は *Scinaia* 属から嚢果の構造に於て異なるというが著者はその発達を調べたがセッチェルの言うほどではないという。これはスベデリウス (Galaxaura, 1912, p. 148) も認めていると述べている。*Chaetangium fastigiatum* (BORY) J. AG. 原標本研究の結果 *Ch. lingula* は本種に帰属させられた。*Asparagopsis taxiformis* (DELILE) COLLINS and HERVEY. この種類は *A. Sanfordiana* の名前でもオーストラリアに知られ、FELDMANN が言う様に DELILE が *Fucus taxiformis* としたエジプトからの原記載と一致するという。

(舟橋説往—北海道大學理學部植物學教室)

## 學 會 錄 事

### 日本藻類学会 第 2 回総会開催

本会第 2 回総会は去る 10 月末日本植物学会大会の京都市に開催されたのを機としてその第 1 日目の 10 月 26 日午後 7 時から京都大学中央食堂に於て行われた。出席者 43 名甚だ盛会であつた。先ず議長として平野実博士を選出、会長の挨拶後舟橋幹事より昭和 28 年度の庶務会計の報告 (別紙の通り) があり、又全員諸氏より会費納入、藻類編集等の件に関し意見の開陳があり、更に明年度は植物学会が広島に於て行われる直前に岡山市に於て本会第 3 回総会を開催する事を満場一致にて決定した。かくして総会を終り会員九州大学農学部水産学科瀬川宗吉博士より約 40 分に亘りサンゴ藻に関する講演があり、終つて標本回覧、懇談の後午後 9 時閉会した。